自分の思いや考えを進んで伝え合い、深めることができる子どもの育成

ー書く活動を通してー

１．設定理由

児童たちが書いている日記や作文を読むと、語彙が乏しいように思われる。また、単学級で６年間クラス替えが無いため、周囲の人とのコミュニケーションの機会が限られており、自分の考えを伝え合い、お互いを高め合うことが課題となっている。

そこで、２年生の「絵を見てお話を書こう」の単元において、様々な言葉で気持ちを表現できるようにさせたいと考えた。また、書いたお話をもとに、意見交換を行い、思いや考えを深めさせていきたいと考え、本単元を設定した。

２．研究仮説

○お話の構成を工夫して指導すれば、一人ひとりの児童が自分の思いや考えをもち、進んで伝え合うことができるであろう。

○伝え合いの方法を工夫すれば、意見交換が活発になり、思いや考えを深めていくことができるであろう。

３．研究内容

○「絵を見てお話を書こう」２学年

①個に応じたワークシートや気持ちについてのヒントカードを工夫する。

②焦点化した話し合いを行う。

４．結論

○お話を作る時には、形式の異なるワークシートを用意したことで、文を書くのが苦手な児童でも、意欲をもってとりくむことができた。

○語彙を増やす活動を行ったことで、様々な言葉で気持ちを表現することができた。

○感想の伝え方を明示し、意識させたことで、どのように意見を言えばよいのかが明確になり、活発に話し合うことができた。

○話し合いの後に再度見直す時間を設けたことで、補足したり、訂正したりすることなど、考えを深めている姿が見られた。

印旛支部
四街道市立旭小学校
藤井　恵理香
川端　紫帆

1　研究主題

自分の思いや考えを進んで伝え合い、深めることができる子どもの育成

～書く活動を通して～

2　主題設定の理由

（1）地域や児童の実態から

本校は明治６年開校で、創立１４５年を迎える四街道市内でも最も古い歴史を持つ学校で、学区には何世代にも渡り本校の卒業生という家庭もある。現在は、４、５０年前に開発された住宅地から通学する児童がほとんどで、古くからある地域から通学する児童は３０名くらいである。学校は全体として家庭的で温かい雰囲気がある反面、クラス替えがなく、人間関係が固定化したり、向上心や競争意識に欠ける面が見られたりする。周囲の人とのコミュニケーションの機会が限られており、仲間と共に考え、関わり合いながら伸びていこうとするまでには至っておらず、自分の考えを伝え合うことで、お互いを高め合うことが課題となっている。

（2）新学習指導要領から

今の子どもたちが成人して社会で活躍する頃は、社会構造や雇用環境は急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。人工知能が飛躍的に進化することも予測される。このような時代にあって、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築していくことができるようにすることが求められる。

こうした状況を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の推進が、新指導要領の基本方針の一つになっている。

〔思考力、判断力、表現力等〕の目標は、「日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や想像力を養う。」となっている。低学年では「伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。」となっており、伝え合う力の育成と思いや考えの形成から深化が目標となっている。

3　研究仮説

仮説１

お話の構成を工夫して指導すれば、一人一人の児童が自分の思いや考えをもち、進んで伝え合うことができるであろう。

＜手立て＞（１）個に応じたワークシートを工夫する。

（２）気持ちについてのヒントカードを工夫する。

仮説２

伝え合いの方法を工夫すれば、意見交換が活発になり、思いや考えを深めていくことができるであろう。

＜手立て＞（１）話し合いの手順を示す。
（２）振り返りを行う。（終末に自分の考えをまとめたり、自分の変容を説明したりする場を設ける。）

４　実践例

１　単元名　～にゃあきちとパタパタのお話を書こう～　（２学年）
「絵を見てお話を書こう」

２　単元について

（１）単元観

本単元は、学習指導要領の以下の内容に基づいて設定したものである。

B書くこと （２）経験したことや想像したことなどについて、順序を整理し、簡単な構成を考えて文や文章を書く能力を身に付けさせるとともに、進んで書こうとする態度を育てる。 イ　自分の考えが明確になるように、事柄の順序に沿って簡単な構成を考えること。 ウ　語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。 オ　書いたものを読み合い、よいところを見付けて感想を伝え合うこと。 ［伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項］ （１）イ（オ）句読点の打ち方や、かぎ（「　」）の使い方を理解して文章の中で使うこと。

本単元は、絵から想像を膨らませて、お話を作っていく教材である。本単元では、はじめに登場人物の特徴を設定する。登場人物の性格や好きなものは事前に決めておき、得意なことだけ自由に考えられるようにすることにより、自分で工夫した登場人物を作り上げられるようにする。

次に、児童はお話の中身を作る。絵とお話の書き出し、書き終わりは事前に決めておくので、低学年の児童でもお話を考えやすいものになっている。お話を作ることは、児童が楽しみながらとりくむことができる活動だと考えるので、一人一人が自分の考えをもつことができるだろう。また、自分でお話を書いていくことで、かぎの使い方を習得することができる学習である。

それぞれの場面でお話を考えた後には、出来上がったお話を友だちに聞いてもらう。自分が作ったお話を伝え合うことで、表現の違いを実感できると考える。そして、お話を書いて終わりにするのではなく、それぞれが書いたお話を一冊にまとめ、図書室に置き、皆に見てもらうことを学習のゴールとする。そうすることで、自分の考えを伝える楽しさを実感させることができると考える。

（2）児童の実態（男子１３名　女子１７名　合計３０名　平成２９年９月２５日実施）

		はい	どちらかと言えば、はい	どちらかと言えば、いいえ	いいえ
1	国語の学習は好きですか。 それはなぜですか。	１３名	７名	５名	５名
	〈好きな理由〉 ・物語を読むのが好き　８名 ・字を書くのが好き　７名 ・音読、作文、漢字が好き　５名		〈きらいな理由〉 ・作文が苦手　５名 ・漢字が難しい　３名 ・発表が苦手　２名		
2	自分の思ったことや考えたことを書くことは好きですか。 それはなぜですか。	１０名	１２名	２名	６名
	〈好きな理由〉 ・楽しい　１０名 ・ほめられるとうれしい　７名 ・字を書くのが好き　３名 ・思ったとおりに書けるとうれしい　２名		〈きらいな理由〉 ・うまく書けない　３名 ・字を書くのがきらい　２名 ・面倒くさい　２名 ・恥ずかしい　１名		
3	自分の思ったことや考えたことを話すことは好きですか。 それはなぜですか。	１０名	７名	７名	６名
	〈好きな理由〉 ・楽しい　８名 ・みんなに話せるのがうれしい　７名 ・拍手をしてくれるのがうれしい　２名		〈きらいな理由〉 ・恥ずかしい　１０名 ・失敗するといやだ　２名 ・話をきいてくれない　１名		
4	友だちの話を聞くことは好きですか。 それはなぜですか。	１６名	８名	５名	１名
	〈好きな理由〉 ・いろいろな考えがあって楽しい　１０名 ・思っていることが分かる　６名 ・おもしろい　５名 ・聞くのが好き　３名		〈きらいな理由〉 ・よく分からない　４名 ・面倒　２名		
5	物語を作ることは好きですか。 それはなぜですか。	１２名	３名	１名	３名

〈好きな理由〉
・おもしろい話を作ることができる　7名
・考えることが好き　6名
・文を書くことが好き　4名
・ほめられるとうれしい　3名

〈きらいな理由〉
・考えることが嫌だ　8名
・作文が苦手　2名

事前調査

（男子１３名　女子１７名　合計３０名　９月２５日実施）

次の絵を見て，お話を書いてみましょう。

中

○お話の内容
・絵の内容を文に書いただけ。　２７名
・想像したことを書いている。　3名
　登場人物が出てくる　2名
　内容を加えている　1名

○句読点の打ち方
・正しい　１７名
・誤っている　１３名

○かぎの使用
・会話文を使った児童はいない。

意識調査１では、３３％の児童が「国語は好きではない」と回答している。理由を見てみると「書くこと」に対しての苦手意識が強いことがうかがえる。「書くこと」が嫌いな理由として、２から、「うまく書けないこと」を挙げている。「たんけんしたことをつたえよう」の学習では、校外学習へ行って見つけたことを作文に書いたのだが、作文にどのようなことを書いたらよいか分からず、戸惑っていた児童が目立った。３では、話すことが嫌いである理由として、「恥ずかしい」や「失敗すると嫌だ」を挙げている。日常の授業では、発言する児童に偏りが出てしまう。しかし、ペアやグループでの話し合いのように人数が少なくなると自分の考えを言うことができる児童が増える。４では、相手の話す内容が理解できないことで聞くことへの意欲が失われていることが分かる。そのため、話し合いの活動では、話す内容を明確にしていく必要がある。２年生になり、物語を作る経験は少ないが６６％の児童が「物語を作ることは好き」だと回答しているので、本単元の学習は、おおむね楽しみながら活動できるだろうと考える。

事前調査からは、９０％の児童が絵の内容をそのまま書いてつなげている。１０％の児童は、登場人物を書き加えたり、木の設定を変えたりして想像したことを書き加えている。会話を入れている児童はいなかった。普段から書いている日記からは、感じたことを書く時に、「うれしかった」や「おもしろかった」とだけ書いている児童が多く、語彙が乏しいように思われる。

（３）指導観

仮説１

お話の構成を工夫して指導することについて

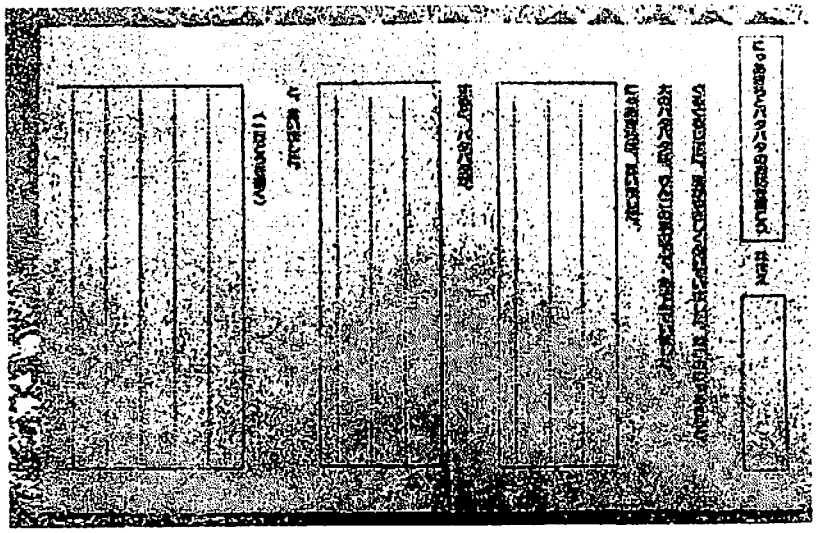
手立て

1－1　ワークシートを工夫する。

お話を書く時には、形式の異なるワークシートを３種類用意する。

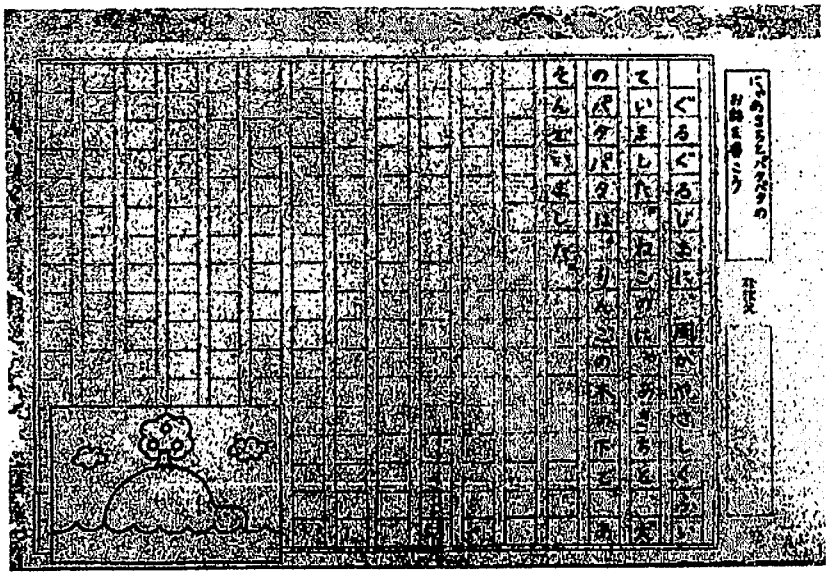
【「はじめ」のお話を書く時に使用したもの】

（1）【ゆっくりコース】



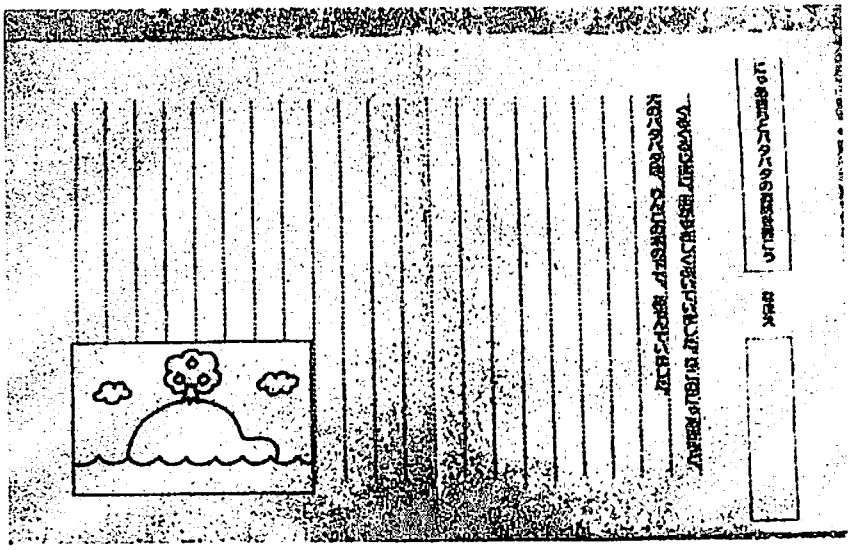
文と文をつなぐ言葉やどのようなことを書けばよいのかを示してある。

（2）【ぐんぐんコース】



マスがあることで、文字をとばして書いてしまうのを防ぐ。

（3）【どんどんコース】



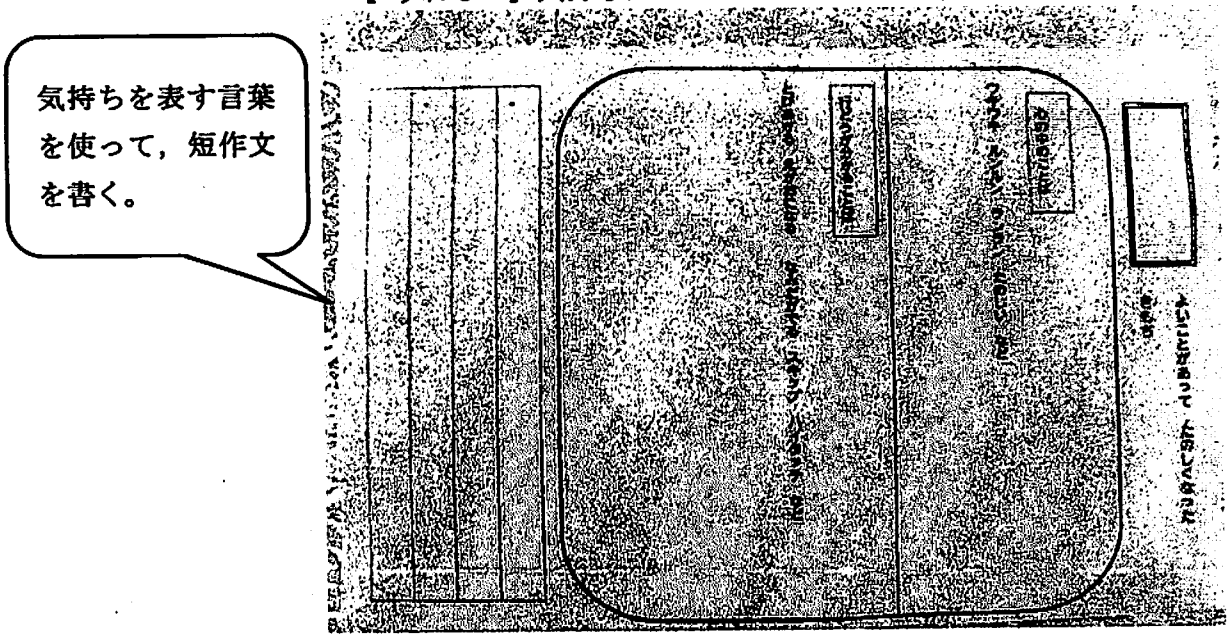
罫線だけが引いてあり、文を多く書くことができる。

毎時間、児童が自分でとりくみやすいものを選んだり、教員が児童の能力に合ったものを勧めたりしてどのワークシートを使うかを決めていく。また、「はじめ」「中」「おわり」を意識させるために、場面ごとに色を変えていく。そのようにして場面の切り替えを分かりやすくすることで、お話を作りやすくする。

１－２　ヒントカードを作成する。

普段から、児童が書いた日記の中でうまく気持ちを表現しているものを紹介する時間をつくっており、表現の幅を広げることができるようにしている。さらに、ドリルタイム等を使って、気持ちを表す同義語の紹介やそれを使った短作文を学習するようにした。「うれしい」や「かなしい」「おどろく」といった、児童がお話を書く時に取り入れやすい気持ちの言葉集めを行っていく。そこで使ったものをカードにして、お話を書く時に「ヒントカード」として活用していく。そのようにして語彙を増やしていくことで、様々な言葉で主人公の気持ちを表現できるようにする。

【「うれしい」気持ちについてのヒントカード】



仮説２

伝え合いの方法の工夫について

手立て

２―１　話し合いの手順を示す。

全体の前で発表することが苦手な児童でも自分の考えを伝えることができるようにするために、ペアや少人数のグループでの話し合いの場を取り入れていく。

話し合いを行う時には、どのように行えばよいか手順を示していく。感想をまとめたものは常に掲示し、児童が必要な時に確認できるようにしておく。そのようにした上で、本時における話し合いのポイントや考えの伝え方を示すことで目的をもった話し合いになるだろう。

2—2　振り返りを行う。

話し合いの後には、自分の考えをまとめる時間をとり、思いや考えを深めていけるようにしていく。友だちからのアドバイスを受けて、補足したり、訂正したりする場も確保するようにしていく。

3　単元の目標

○絵から楽しくお話を想像して書こうとしている。（関心・意欲・態度）

○想像したことを書くことができる。（書くこと）

○句読点やかぎなどを正しく使うことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

4　指導計画（8時間扱い）

段階	時配	学習内容と学習活動		評価規準（評価の観点・評価方法）
第一次	1	○全文を読み、学習計画を立て、単元の見通しをもつ。	語彙を増やす学習（ドリルタイム）手立て1—2	・お話を作るという学習活動の流れが分かり、お話を書くことへの興味や意欲をもっている。（関心・意欲・態度）【観察・発言】
第二次	1	○3枚の絵を見て、その絵のお話に出てくる登場人物の得意なことを決める。 手立て2—1		・登場人物の得意なことを決めている。（書くこと）【ノート・発言】
	1	○3枚の絵をよく見て、出来事など想像できることをノートに書き、友だちと話し合って想像を膨らませる。 手立て2—1		・絵を見たり、友だちと話し合ったりして想像した出来事をノートに書いている。（書くこと）【ノート・発言】
	1	○「はじめ」の絵について、お話を書く。 手立て1—1　手立て2—1　手立て2—2		・お話の「はじめ」の様子を想像して、書いている。（書くこと）【ワークシート】
	1本時	○「中」の絵について、お話を書く。 手立て1—1　手立て2—1　手立て2—2		・お話の「中」の様子を想像して、書いている。（書くこと）【ワークシート】

	1	○「おわり」の絵について、お話を書く。 手立て1―1　手立て2―1　手立て2―2		・お話の「おわり」の様子を想像して、書いている。(書くこと)【ワークシート】
	1	○句読点やかぎの使い方を見直し、清書する。		・お話を読み返し、句読点やかぎを正しく使うことができている。(伝・国)【ワークシート】
第三次	1	○出来上がったお話を読み合う。 手立て2―1		・友だちが作ったお話を表現の違いを楽しみながら読もうとしている。(関心・意欲・態度)【観察・発言】

5　本時の指導（5／8）

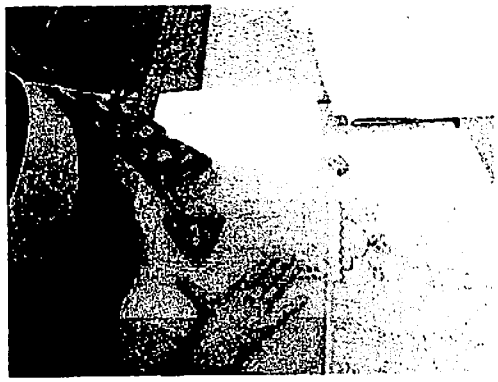
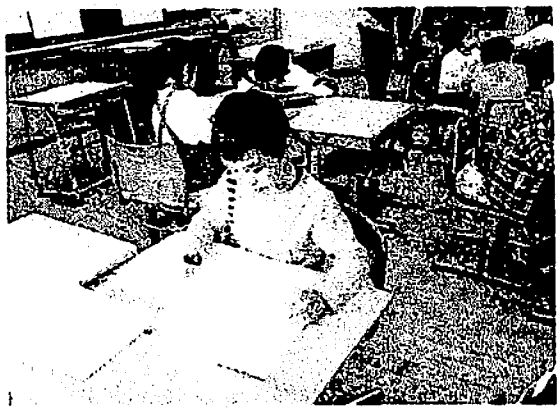
（1）目標

○「中」の絵を見て、楽しくお話を想像して書こうとしている。　(関心・意欲・態度)

○お話の「中」の様子を想像して、書くことができる。　(書くこと)

（2）展開

時配	学習活動と内容	指導・支援　○評価	資料
3	1　できたところまでのお話を読み、本時の学習課題をつかむ。	・学習計画が書かれている掲示物を使って、本時の目的を確認できるようにする。　(T1)	学習計画の掲示物
	じけんがおきる場めんのお話を作ろう。		
2	2　絵から想像できるお話をペアで話し合う。 ・海に落ちてしまう。 ・空まで飛んでしまう。 ・島が移動する。 ・りんごを探しに行く。	・想像を膨らませるような声かけを行うことにより、様々な考えが挙がるようにする。 (T1)(T2)	
5	3　話し合いで出された意見を全体で共有し、お話の書き方の手本を確認する。 ・場面の様子、会話、行動を書いていけばいいんだね。 ・登場人物の特徴が分かるように書いていくんだね。	・会話文を意図的に取り上げ、板書することにより、お話の中で会話を書くということを意識させる。　(T1)	手本を示した掲示物

10	4　ワークシートにお話を書く。  	・児童の能力に応じてワークシートの形式を選ばせることで、意欲的にとりくむことができるようにする。　（T１）（T２） ・気持ちを表す同義語をまとめた「ヒントカード」を見るように促すことにより、様々な言葉で気持ちを表現できるようにする。　（T１）（T２） ・考えが浮かばない児童を中心に想像を膨らませてお話を書くことができるように声かけを行う。　（T１）（T２） ○２枚めの絵を見て、楽しくお話を想像して書こうとしていたか。（関心・意欲・態度）【観察・ワークシート】 ○お話の「中」の様子を想像して、書くことができていたか。（書くこと）【ワークシート】	ワークシート ヒントカード
10	5　出来上がったお話をグループで話す。 ・一人が発表したら、順番に感想を言うんだね。 「～ところがよいと思いました。」 「～するとよいと思います。」 	・話し合いの仕方の手本を示すことにより、スムーズに活動できるようにする。　（T１） ・友だちのお話を聞いて感想を言う時には、お話の内容について自分が思ったことを伝えるということを確認する。　（T１） ・話し合いが終わったグループから友だちのアドバイスを受けて、補足したり、訂正したりできるように助言する。　（T１）（T２） ・まだお話が書き終わっていない児童にも、進行状態に合わせてアドバイスができるように支援する。　（T１）（T２）	感想の伝え方の掲示物

１０	6　アドバイスを聞いて、補足したり、訂正したりする。	・友だちのアドバイスを受けて訂正したということが分かるように、訂正する前の文は消さずに残しておくことを確認する。（Ｔ１）	
5	7　友だちのお話のよかったところを発表し、次時の学習の見通しをもつ。	・次時は、３枚めの絵についてお話を書くことを確認する。	

5　成果と課題

仮説１

お話の構成を工夫して指導することについて

＜成果＞

○お話を作る時には、形式の異なるワークシートを用意したことで、文を書くのが苦手な児童でも、意欲をもって取り組むことができた。

○「はじめ」「中」「おわり」でそれぞれワークシートの色を変えたことで、場面の切り替えを意識させながらお話を書くことができた。

○ヒントカードに書かれている言葉を使うようにしたことで、様々な言葉で気持ちを表現できるようになってきた。

＜課題＞

●作成したお話（はじめ、なか、おわり）のつながりをもっと意識させるべきだった。そのために、二人の登場人物が出てくる本を並行読書させたり、お話を書く活動の前に絵を見せながらあらすじを話させたりするとよかった。

●ヒントカードを作成する時には、読んだ本の中から気に入った表現などを見つけて、加えて書かせていくことで、たくさんの言葉を集め、活用することができたのではないかと考える。

仮説２

伝え合いの方法の工夫について

＜成果＞

○お話を一冊にまとめて図書室に置くことを学習のゴールとしたことで、最後まで意識をもってとりくむことができた。

○全体での発表の前に、ペアや少人数での話し合いの場を取り入れたことで、全体の前で発表することが苦手な児童でも自分の考えを伝えることができた。

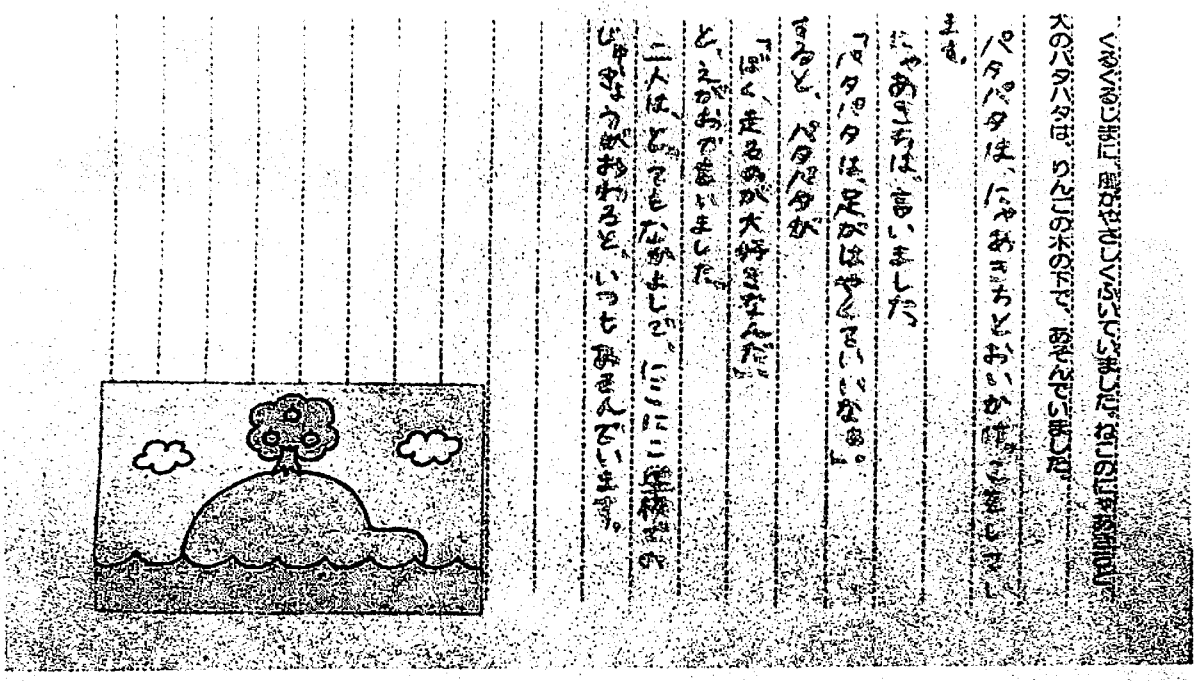
○感想の伝え方が書かれた掲示物を貼ったことで、どのように意見を言えばよいのかが明確になり、活発に話し合うことができた。

＜課題＞

●お話を作った後のグループで読み合う活動の時には、感想を伝えるだけではなく、お話の内容についてのアドバイスができると良かった。

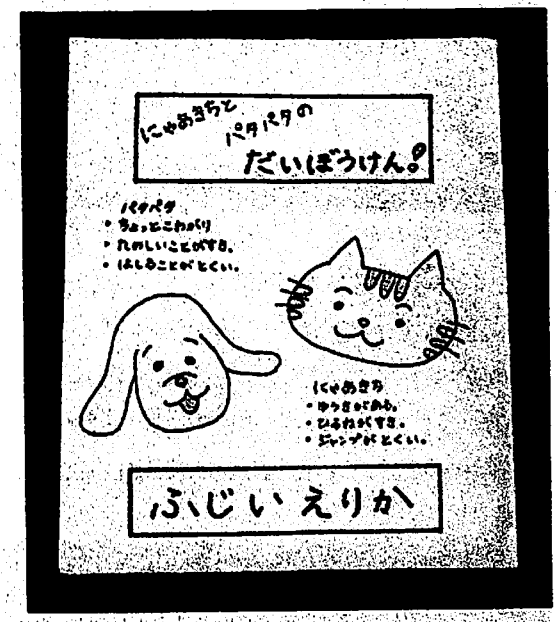
資料編

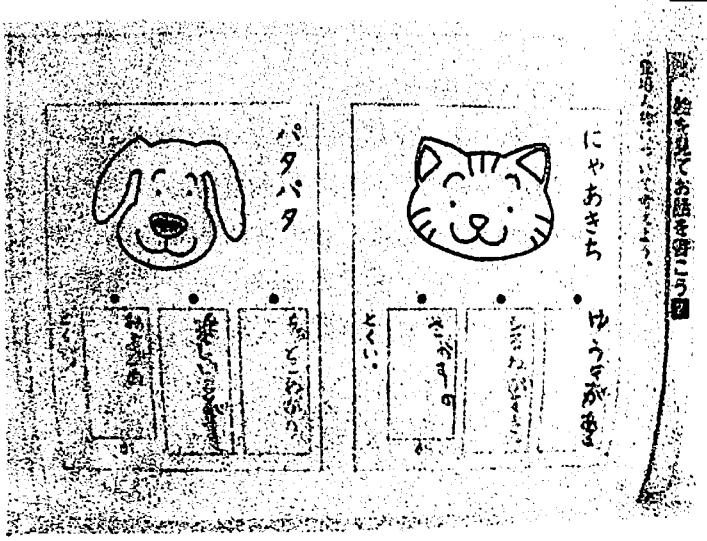
児童の変容と考察



【絵本の見本】

単元計画と一緒に教員が作った絵本の見本も提示した。「世界に一つだけの絵本を作ってみよう」と投げかけると、児童からは「自分たちも作ってみたい」という声が上がった。単元計画や絵本の見本を提示したことで、学習のゴールが明確になり、意欲をもって学習にとりくむ姿が見られた。

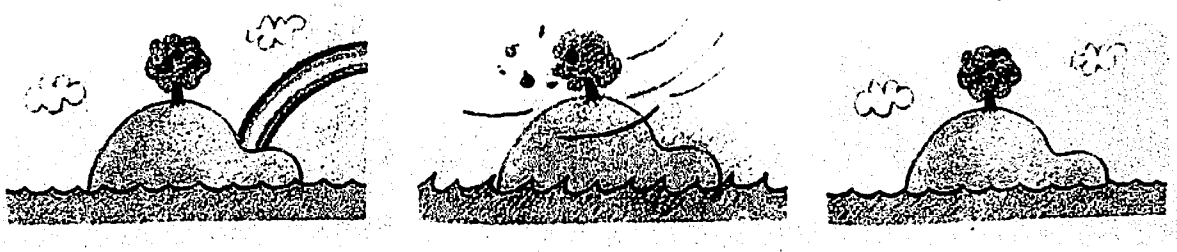


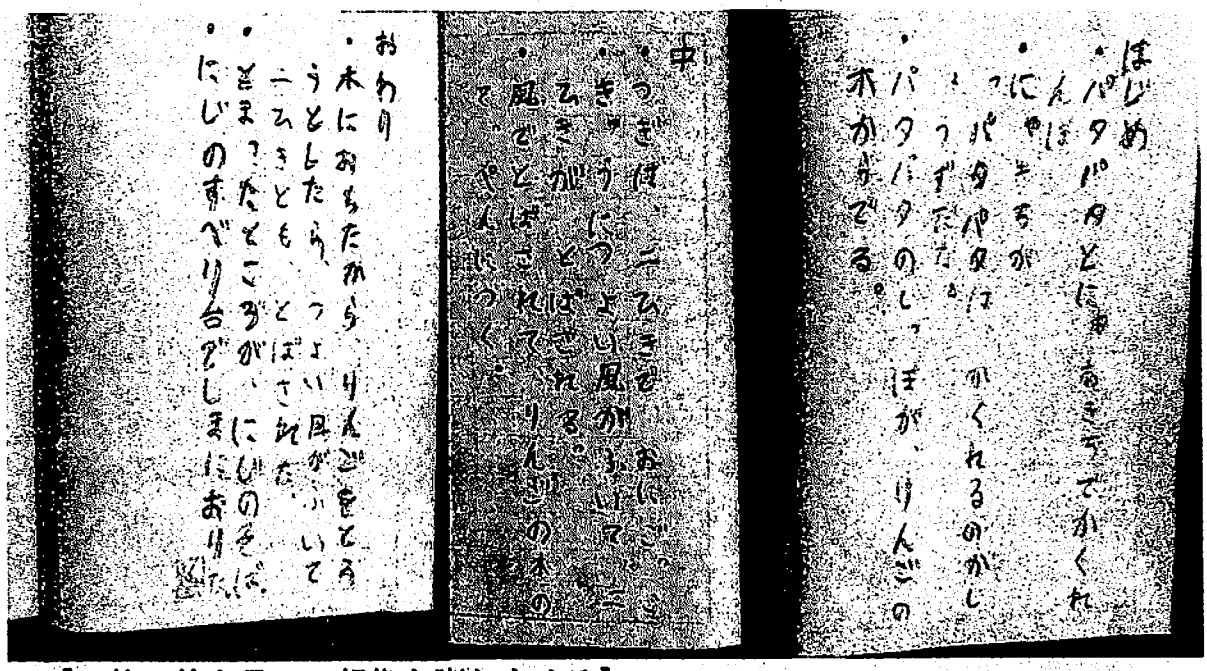


【登場人物の得意なことを決める】

登場人物の得意なことや好きなことを決める活動を行う時には、ペアでの話し合いの後に全体で意見を共有するようにした。そのようにすることで、話し合いが活発になり、様々な意見が出されるようになった。全体での話し合いでは、「昼寝が好き」「料理が得意」「魔法が使える」などの意見が出された。

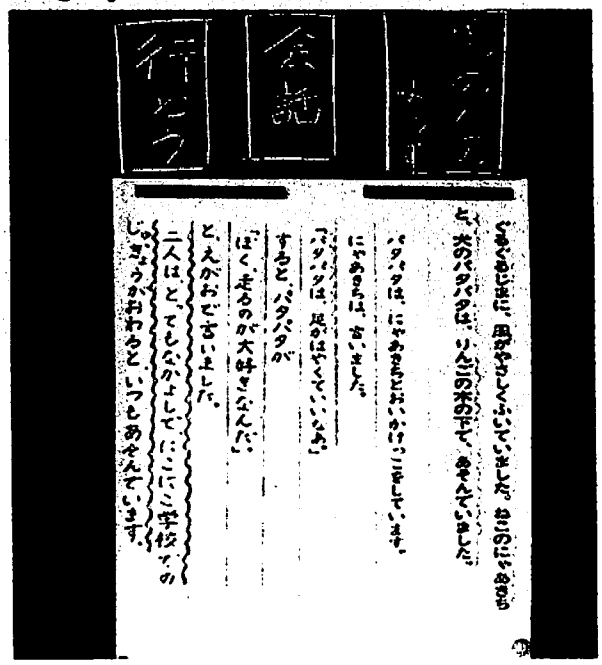
おわり　　中　　はじめ





【３枚の絵を見て，想像を膨らませる】

まず、絵から見て分かることを話し合った。「風が吹いている」「りんごの数が減っている」「波が高くなっている」などそれぞれの絵の違いに注目することができた。次に、絵から想像できる出来事をノートに書かせた。児童は「パタパタとにゃあきちがかくれんぼをする」や「風で落ちたりんごを二人で分け合う」「海で泳ぐ」などと書いていた。ノートに書かせた後には、全体で意見を出し合うことで、絵から自由に想像を膨らませることができた。



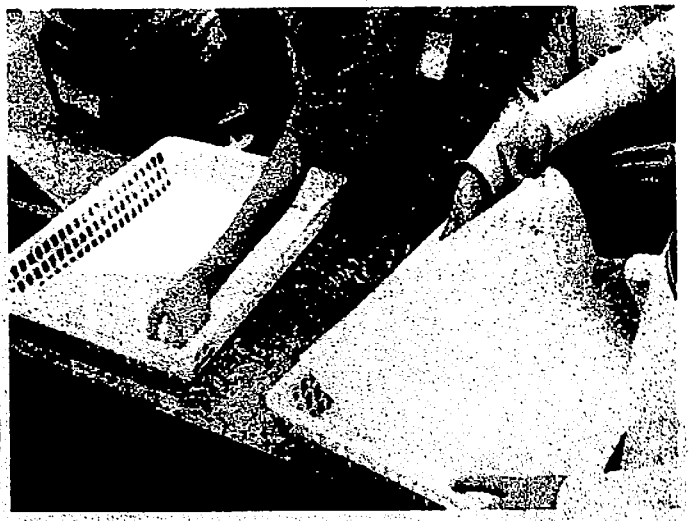
【お話の書き方】

お話は、「絵から想像した場面の様子」「会話」「登場人物の行動」を入れて書くようにした。お話の書き出し、書き終わりの文は決めておくことで、文を考えるのが苦手な児童でも、考えやすくなったようだった。

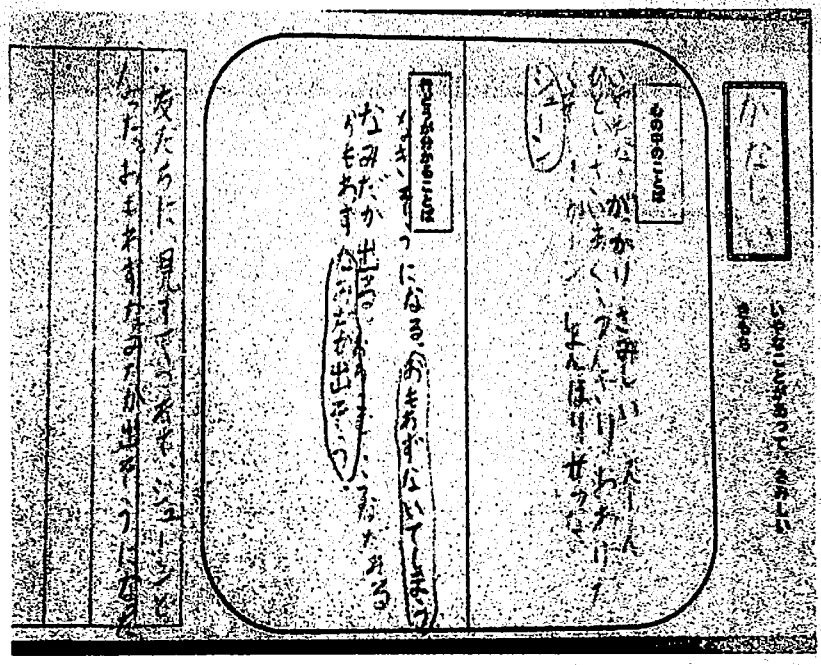
手立て１－１　ワークシートを工夫する。

【ワークシートは３種類】

毎時間、「ゆっくりコース」「ぐんぐんコース」「どんどんコース」の中から自分の書きやすいものを選ばせた。始めは、マスのあるワークシートを選んだ児童が多かったが、「おわり」のお話を書く時には、罫線だけのワークシートを選ぶ児童が多かった。お話を書く学習を重ねていくうちに、書くことへの自信がついていったことが分かる。



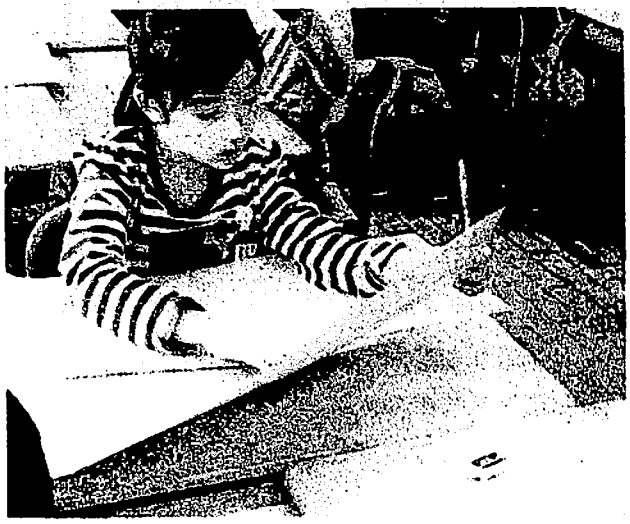
手立て１－２　ヒントカードを作成する。



【ヒントカード】

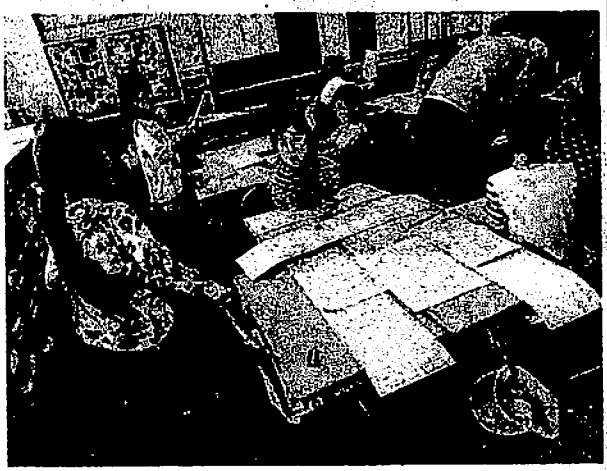
ドリルタイム等を使って語彙を増やす活動を行った。「悲しい」という感情の「心の中のことば」と「行動が分かることば」には、どのようなものがあるか児童から意見を出させてカードにまとめていった。「がっかり」「えーん」「しょんぼり」といった様々な言葉を書いている。言葉を見つけた後には、出てきた言葉を使って短作文を考えさせた。

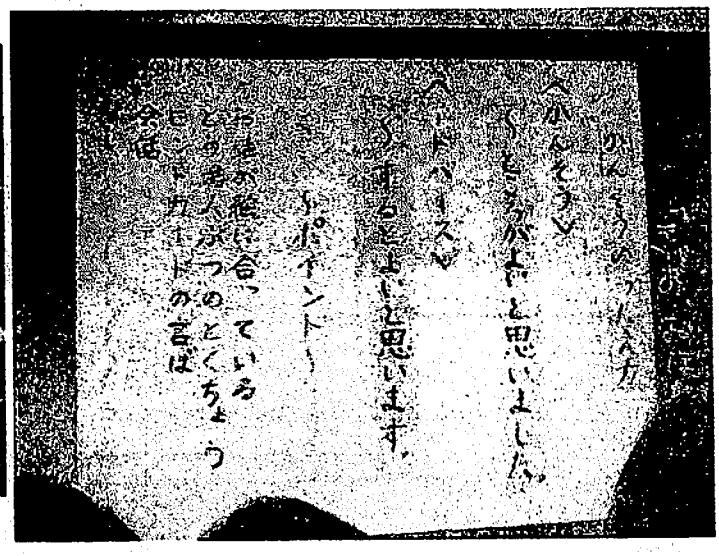
ヒントカードは、お話を書く時に活用していった。お話の中で使った言葉は〇で囲んでいくようにしたことで、お話を書き進めていくうちに、ヒントカードの言葉を使う児童が増えていった。



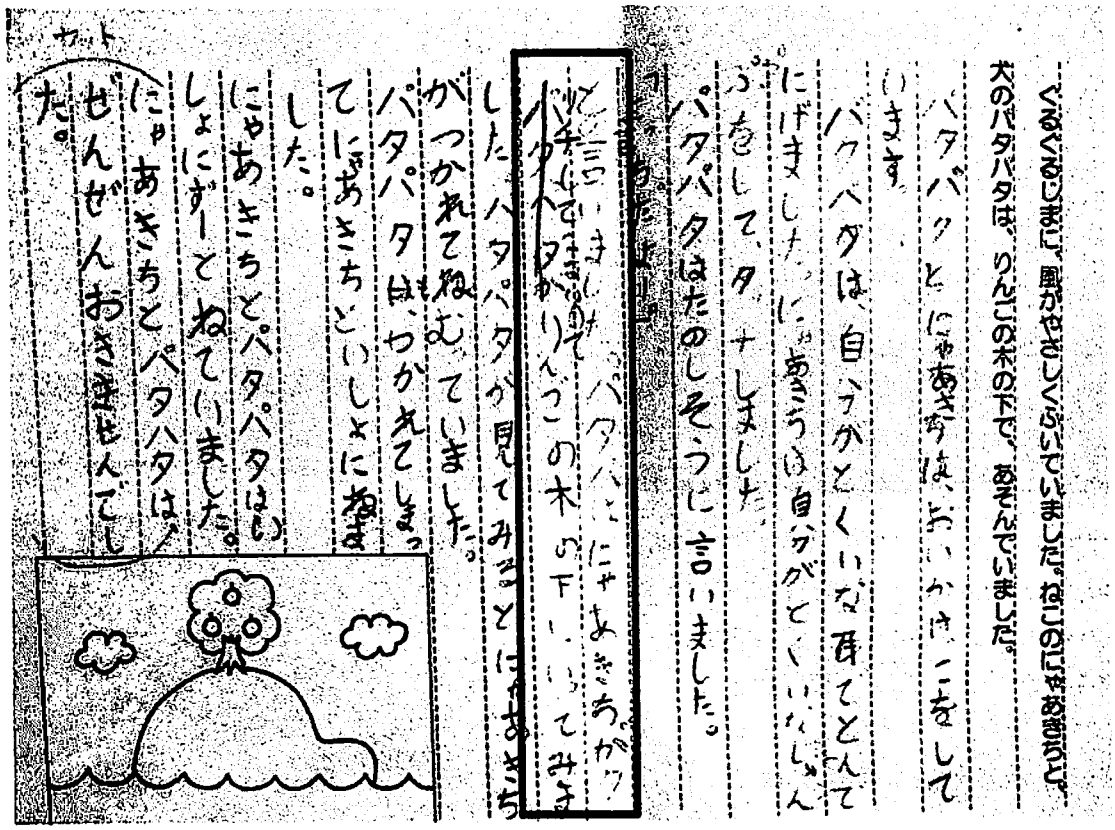
手立て２－１　話し合いの手順を示す。

グループの中で、できたお話を一人ずつ読んでいった。一人が読んだら、聞いている児童が順番に感想を言った。少人数のグループで行うことで、人前で意見を言うのが苦手な児童でも相手に感想を伝えることができた。また、感想の伝え方を掲示したことで、児童が必要な時に確認することができ、何を言えばよいか戸惑うことなく話し合うことができた。児童たちは「ヒントカードの言葉を入れていて良かった」や「会話がたくさん入っていた」といった感想を発表者に伝えていた。



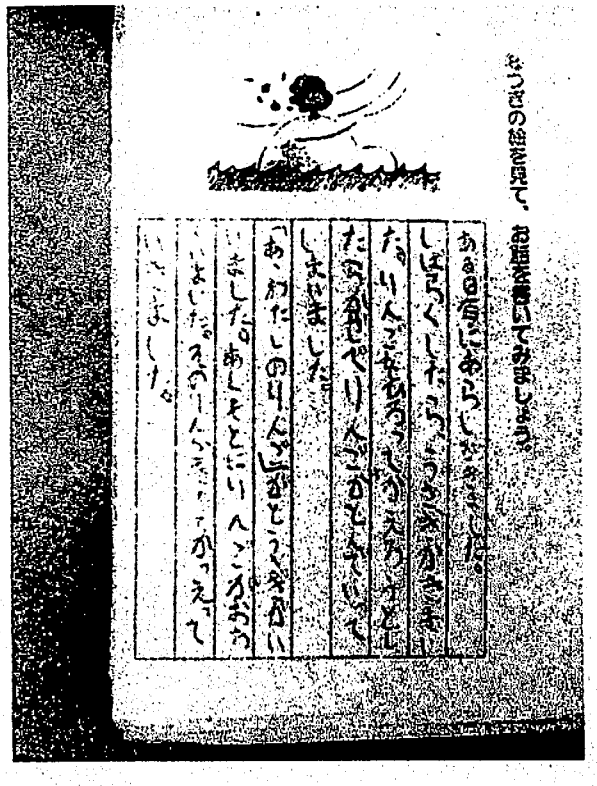


手立て２－２　振り返りを行う。



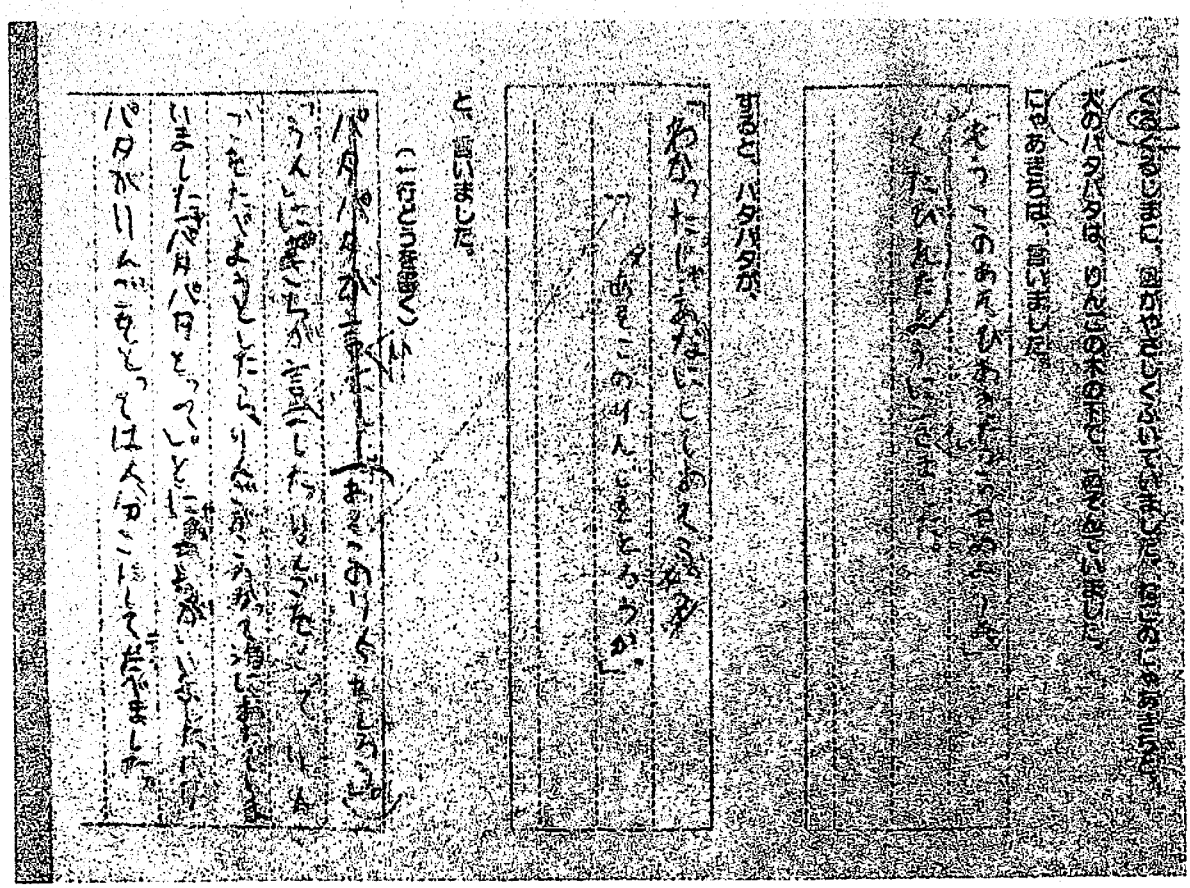
振り返りの時間では、友だちのアドバイスを受けて訂正することができた。自分が書いたお話を読み返したり、アドバイスを受けて訂正したりすることで、自分の伝えたいことが相手に伝わる内容になっているか確認することができた。

【A児の変容】（国語が苦手な児童）



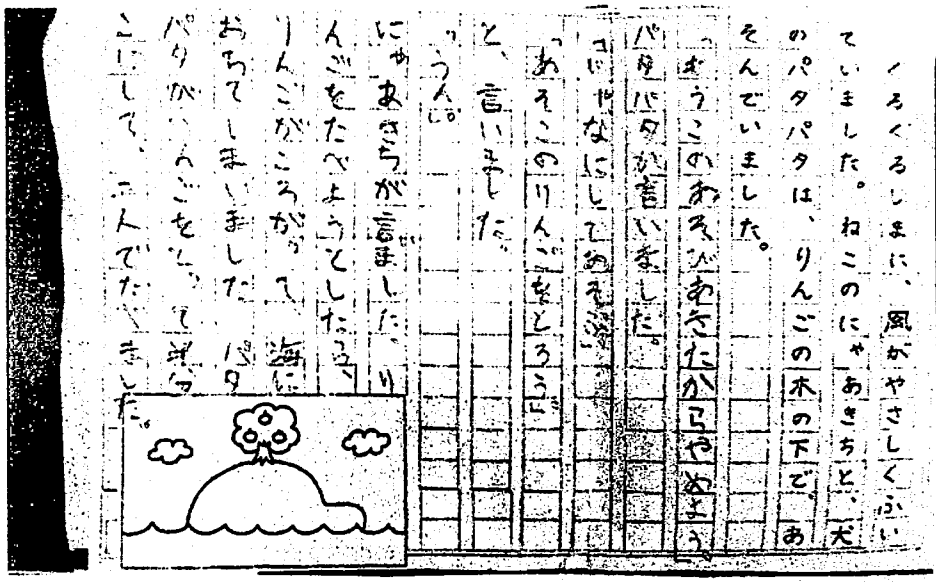
【実態調査】

文を書くことに苦手意識があり、言葉が抜けてしまう時がある。想像することは好きだが、考えていることを文に書くとなると、どのように書けばよいか分からなくなり、手が止まってしまう時がある。促音や拗音を正しく書くことも課題である。



【「はじめ」の絵についてお話を書いた時のワークシート】

【お話の清書】



いろくるしまに、風がやさしくふいていました。ねこのにゃあきちと、犬のパタパタは、りんごの木の下であそんでいました。

「ねえ、このあそびあきたからやめよう。」

パタパタが言いました。

「じゃなにしてあそぶ？」

「あそこのりんごをとろう。」

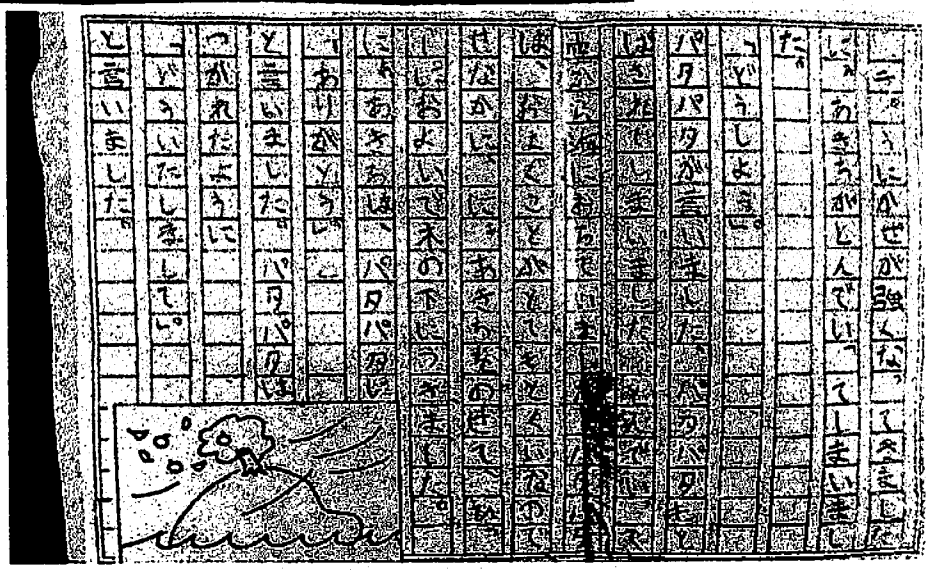
と、言いました。

「うん。」

にゃあきちが言ました。りんごをたべようとしたら、りんごがころがって、海におちてしまいました。パタパタがりんごをとってきてくれて、二人でたべました。

お話を書く時には、「ゆっくりコース」のワークシートを選ぶ。「この後どうなると思う。」や「この絵は何が描かれているかな。」など個別に言葉かけしながらお話を考えていった。

【はじめ】



「ぴゅーっ。」

「にゃあきちがとんでいってしまいました。」

「ごめんなさい。」

パタパタが言いました。

「だいじょうぶ。」

にゃあきちは、パタパタにおよいで木の下にうきました。

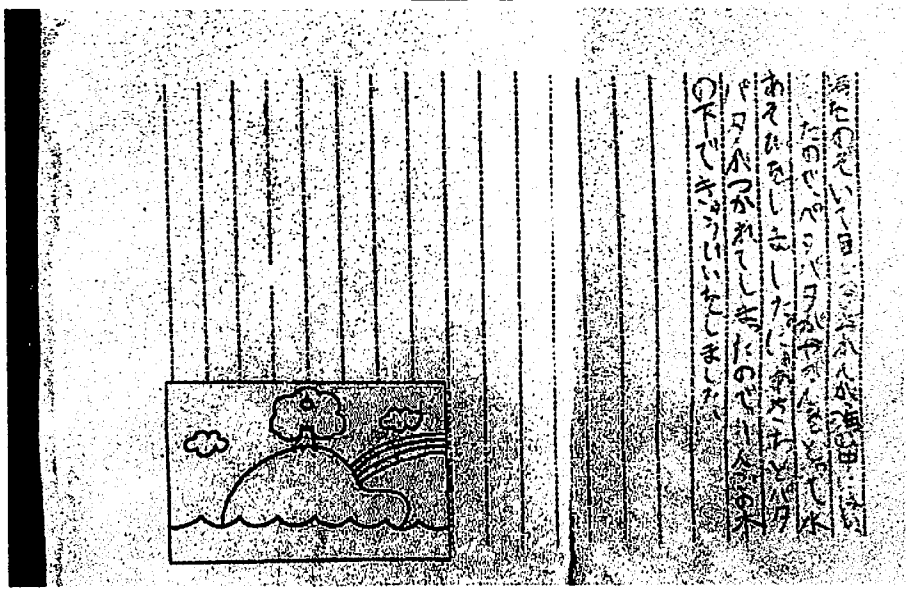
「ありがとう。」

と言いました。パタパタはつかれたように

「いっぱいたしました。」

と言いました。

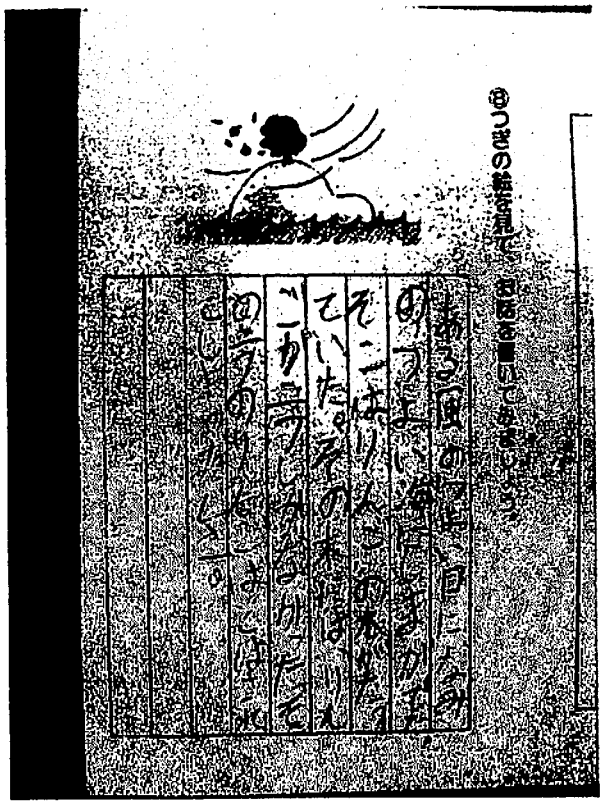
【中】



【おわり】

登場人物の得意なことの一つである「およぐこと」を活かしたお話を書くことができた。また、促音や拗音を正しく書くことができた。登場人物の会話を書く時には、かぎを正しく使って書き、会話の後の文も次の行に書くことができた。一冊の絵本を作り上げたことで、達成感を得て、書く活動への苦手意識が少し無くなったようだった。

【B児の変容】（国語が得意な児童）

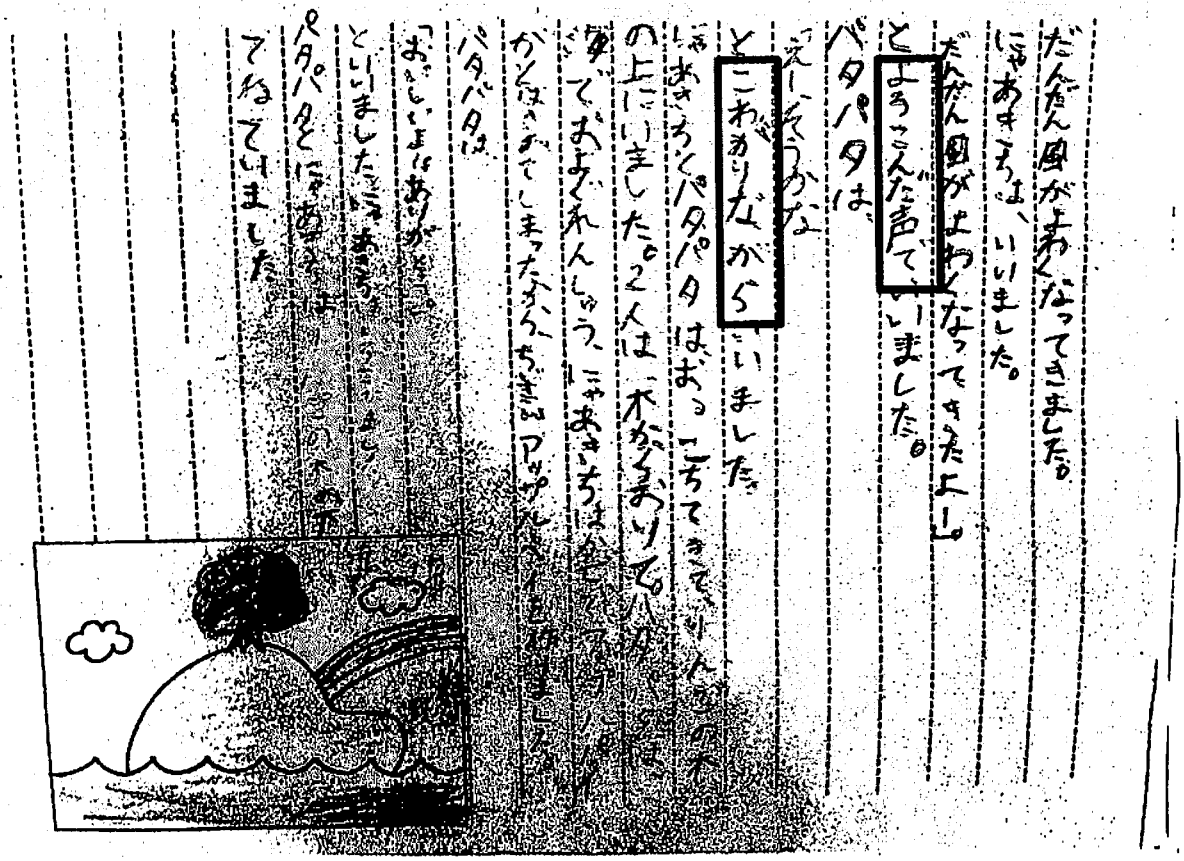


【実態調査】

意識調査では、「自分の思ったことや考えたことを書くことは好き」と答えており、普段書いている日記や作文の学習にも意欲的にとりくんでいる。

しかし、実態調査では、絵の内容を文に書いただけだった。

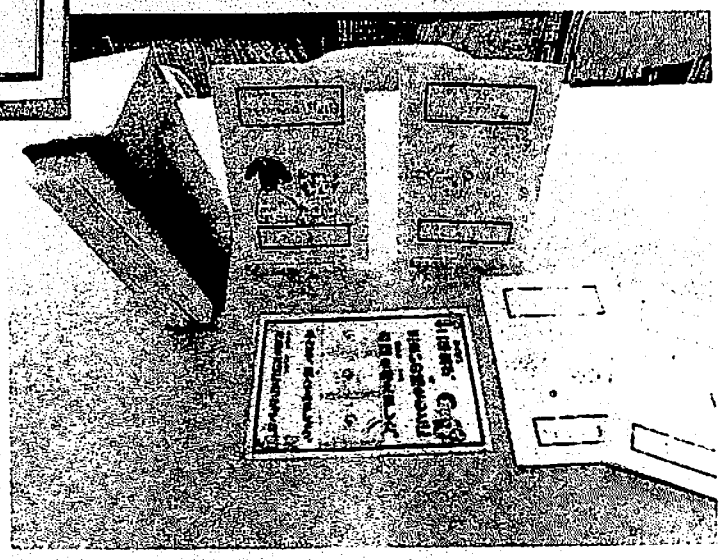
ヒントカードの言葉をお話の中に入れることができた。



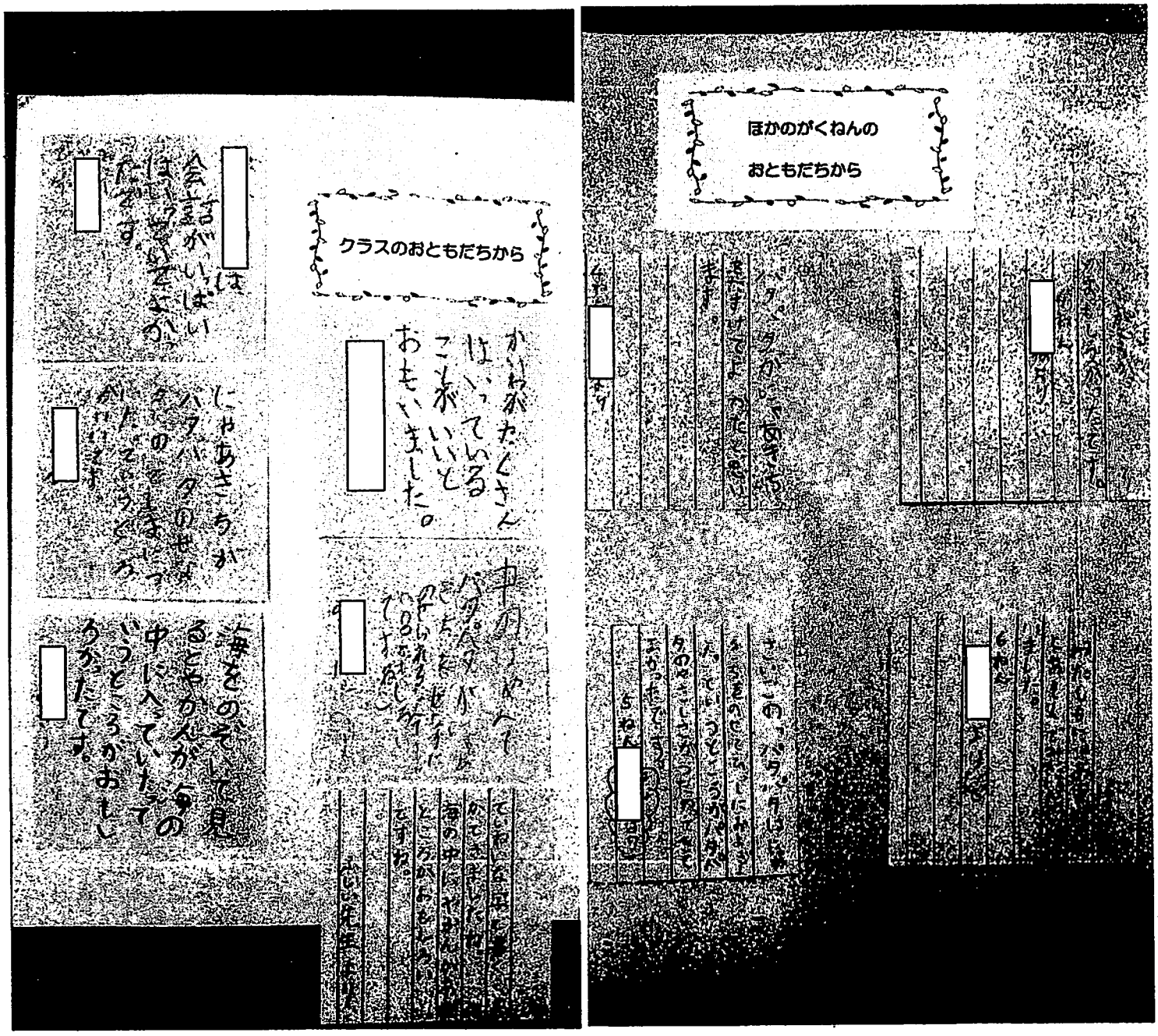
【「おわり」の絵についてお話を書いた時のワークシート】

お話を書く時には、「ぐんぐんコース」のワークシートを選ぶ。にゃあきちの「料理が得意」という特徴から想像を膨らませてお話を書くことができた。お話を書き進めていくうちに「よろこんだ声」や「こわがりながら」といったヒントカードの言葉をお話の中に入れることができた。他にも「えがおで言った」や「なみだが出るぐらいの声で」などの言葉を使い、様々な言葉で気持ちを表現することができた。

【完成した絵本を図書室に置いてもらいました】



児童が作成した絵本を図書室に置き、他の学年の児童にも読んでもらった。自分が作った絵本を皆に見てもらい感想をもらったことで、自信がつき、今後の書くことへの意欲につながった。



【感想を書いてもらったもの】